

続ボラッチョ・ボニートのメキシコ便り(No.18)

「人間は果実と同じ、年をとれば益々味が出る」

・・・格好良く年齢を重ねたいものである・・・

暫く前から日本でアンチエイジングという言葉聞くようになった。なにやら分かりにくい、「抗老化」、「抗加齢」というそうだ。加齢を、「時計の針を止めることでなく、針を少し戻して、その進みを遅らせる」とのことだが、日本の高齢化社会を背景にした一つのキーワードなのだろう。

一方、メキシコでは最新の統計によれば、20歳未満の構成員が41.2%を占め、30歳未満を合計すると57.4%に達する。世帯主の平均年齢は47歳で、日本と比較すれば、まだ高齢化社会の度合いは少ないと言えるが、近年は少子高齢化の兆しが現れており、同国の高齢化は西欧先進国のかつての高齢化の、約5倍の速度で進行しているという。

政府は特別な部門を設置し、高齢者対策に関する方針を打ち出しは始めている。

街には若さあふれる人々で、満ち溢れているようにも見えるが、内実はメキシコは世界でも有数の肥満国であるし、また前述のような事情も現実として起きつつあるので、それなりに健康に関心が高いのだろう。

当地のテレビなどでは、美容関係や健康食品、薬品関係のコマーシャルが結構多い。

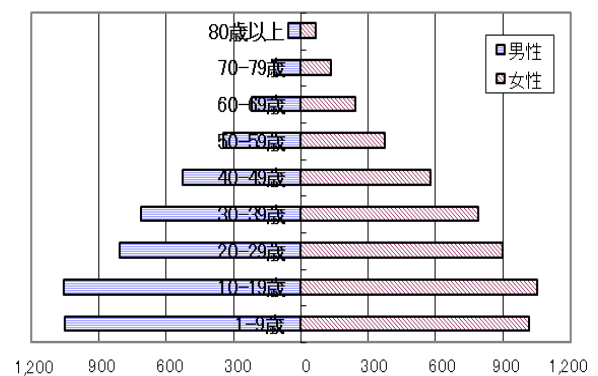
年齢の衰えを実感しているボラッチョ・ボニート氏にとっては、いまさら手入れしても、どうにも修復不可能であるので、これらの宣伝製品は、本来は興味の対象外であるが、いかにも健康そうな美女が、過剰とも思えるほど効果を強調するので、眉に二重にも三重にも唾をつけて聞いたほうが良いと思いつつも、時には、彼女らの言い分に乗って見たらどうなるだろうなどの、誘惑に駆られてしまう。

こんな折、日本国首相が、青年会議所の会合で、「元気な高齢者をいかに使うか、この人たちは皆さんと違って、働くことしか才能がないと思って下さい。働くということに絶対の能力がある。80過ぎて遊びを覚えるも遅い。遊びを覚えるなら青年会議所の間くらいだ。・・・、60過ぎ、80過ぎて手習いなんて遅い」と言うような趣旨の発言をしたという。

前後の関連が分からないので、正確ではないかもしれないが、無芸無趣味の高齢者は無駄飯を食わずに、さらに働けと鼓舞しているようにも解釈できる。それならもっと高齢者層に対する温かみのある、別の言い方があると思うのだが、高齢者は政治の世界から見放されたのかと、ぼやきの一つも出て、哀しみの底に沈んでしまう。

私にとって、若い頃から無芸で無趣味で働くしか能がなかったのは、首相に言われるまでも無く、まさにそ

図1 メキシコの年齢別・性別人口構成



(注) 年齢不詳の人口を除く。

(出所) 国立統計地理情報院(INEGI)「国勢調査(2005年)」

ジェトロメキシコの資料より

うだからで、もし可能であるならば、あえて、人生を砂時計に例えてみて、残り少なくなった砂と、既に流れた砂を反転し、別の人生を歩んだらどうだっただろうかと悩んでしまう。

それが不可能だからこそ、これからの残り少ない人生を、悔いのない人生だけを送ることに心がけようという考えに至る。こんなことを考えていたら、

「El hombre es como la fruta, cuanto más maduro más sabroso」

(エル オンブレ エス コモ ラ フルータ クアント マス マドゥロ マス

サブロン と発音し、意味は表題と同じ)の諺を思い出したので、今回タイトルに採用したのである。

言うは易く行うは難しいし、何が悔いのない人生かの回答を出すのも難しいが、せめて気持ちだけはサブタイトルに込めたように、果実が熟して味が良くなる(味が出る人生)、格好良く年齢を重ねたいものである。



前の便りにも書いたが、着て行った服装を、「何とダンディーだ」などと言われると、メキシコ人の褒め上手とわかっていても、女性の多い職場ゆえ、気分的にも若返ったようで何となくうれしくなってしまう。

褒め言葉などを貰ったことは過去にも無く、こんな単純なことで気分的にも若返りが可能で、あわせてそれが、仕事にも意欲が湧いてくるならば、せめて、このボランティア活動滞在中だけでも実行しよう。

しかし、自然の摂理に逆らってまで、肉体的や外面(そとづら)的に若返るつもりはないので、自然に任せよう。齢を重ねるのも、悪いものではない。過去に気がつかなかったことの輪郭が見えてくるのも、年取った者の一つの優位性だと考えよう。

もっとも果実も熟し過ぎれば、味が出るどころか腐ってだめになってしまうので、いやみにならない限界を突き詰めるのが難しいところだ。それにしても、多くの国で高齢化社会へ移行していけば、将来の地球号はどのような社会になってしまうのだろうか。

首相の高齢者はもっと働けと言った趣旨の発言も、遠い将来を見つめた、深謀遠慮の発言だったのかも知れない。

(2009年8月15日、終戦記念日に過去のことを思いつつ)